

施策マネジメントシート(平成27年度の振り返り、総括)

作成日 平成 28 年 6 月 23 日

基本目標	V	豊かな心と文化を育むまち	主管課	名称	教育課
				課長	杉木 隆司
施策	29	文化財の保存と活用	関係課		

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
			2 文化財の活用	町民	文化財に関心を持ち、重要性を知る。
			3		
			4		
			5		

成果指標	成果指標名	単位	区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
				A	文化財の保護活動参加者数	人	実績値		320	303
			目標値		320	320	320	320	320	320
B	地域の伝統芸能に参加している町民の割合	%	実績値	10.7	11.1	8.3	8.5	9.2		
			目標値		10.8	11.0	11.2	11.4	11.6	11.8
C	保護・継承されている指定文化財の数	件	実績値	96	96	98	97	102		
			目標値		97	98	98	99	99	100
D	地域で継承されている伝統芸能の数	件	実績値	30	30	30	30	30		
			目標値		30	30	30	30	30	30
E			実績値							
			目標値							
F			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方

A) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 主管課が毎年保護活動に対する謝礼を支払う際に年間の活動実績を調査指定文化財で維持管理に経費の生じるもの(指定文化財全体の約4割)については管理者に対して実績報告に基づき謝金(5,000円~10,000円)を支払っている。

B) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 町民アンケートにより把握
 ※あなたは日頃、文化芸術に触れ親しんでいますか。→「地域の伝統芸能(祭りや神楽、獅子舞など)に参加する」と回答した人の割合

C) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 主管課で実数を把握

D) 直接的な設問であり、数値が高まれば目的が達成できているといえるため成果指標とした。
 主管課が毎年保存会等代表者に直接聞き取り調査を実施

目標値設定の考え方

A) 地区や神社の役員などがこれに当たるが、年々減少の傾向にあり、成り行き値は2年ごとに5人ほど減少すると予想される。文化財の啓発普及活動を活発にするなど郷土愛とともに地元の文化財を自分たちで保護するという考え方を広める工夫を行うことなどにより現状を維持する。

B) 伝統芸能の本来の意味に賛同し、継承に新たに保わってくれる人を確保するのは困難であり、高齢化が進行するため、伝統芸能の保護継承に携われる人が徐々に減少するのではないかと。

C) 今後、指定文化財として指定される可能性のあるものが数件ある。文化財保護委員の活動が活発であり、増加する可能性が高い。2年に1件のペースで増やし、平成29年度に100件をめざす。【沼田市:89件(H27)、片品村:65件(H27)、川場村:10件(H27)、昭和村:21件(H27)】

D) 現在のところ教育委員会が把握している地域の伝統芸能(太々神楽、獅子舞など)は30件である。いずれも人員・予算的にギリギリの状態であるが、参加者を地元の地区以外からも募集するなど様々な工夫をこらして継承している。多少なりとも教育委員会として応援し、現状を維持することを目標とする。

施策のための目的・役割分担	1. 町民(事業所、地域、団体)の役割	2. 行政(町、県、国)の役割
	①身近にある地域文化や文化財に関心を持ち、その重要性を認識するとともに、保護・啓発に努める。 ②地域の伝統行事に積極的に参加し、後世に継承する。 ③保護行政の理解・協力を努める。	①文化財に関する情報を発信するなど、町民の意識啓発を行い、郷土や歴史への認識を深める。 ②建物・史跡・美術工芸・天然記念物等の有形文化財を調査し保護管理する。 ③文化財の保護活動や後継者の育成を支援するなど、地域文化の継承を推進する。

施策を取り巻く状況	1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?	2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	①文化庁は従来文化財の保護を重視してきたが、最近では活用にも力を入れ始めている。しかし、観光目的重視というわけではなく、あくまでも文化財保護をクリアしたうえで観光等に活用するという考え方である。 ②町文化財調査委員は意欲的であり、新しい指定文化財が増えていくと考えられる。 ③人口減少や少子高齢化により、伝統芸能の継承者が減少。後継者育成が困難な状態になる。	①文化財等の保存意識の強い住民から、伝統行事の衣装や備品、文化財の修繕に関する要望が多い。 ②文化財の公開の仕方を考えてほしい。特に名胡桃城址や矢瀬遺跡。 ③予算的な措置と合わせて後継者の募集なども協力して欲しいとの要望がある。

施策	29	文化財の保存と活用	主管課	名称	教育課
				課長	杉木 隆司

		実績比較	背景・要因
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	①文化財の保護活動参加者は平成26年度565人、平成27年度795人と増加した。これは、文化財保護活動の大切さを周知したことで、関係者の取り組み意欲が向上したためと考える。 ②指定文化財数は、平成26年度は町・県・国指定の合計は97件だったが、平成27年度は「如意寺の天井絵、羽場日枝神社の天井絵、但馬院の天井絵、廣福寺の天井絵、龍谷寺の天井絵」が町指定文化財に登録され、5件増の102件となった。 ③地域の行事等には気軽に参加できるが、伝統芸能となると敷居が高く限られた人の活動という意識があり、日頃から親しむという感覚はないのではないかと考えられる。
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	①近隣自治体と比較して、指定文化財の数は多い。要因として町民の歴史に対する意識が高いことも考えられる(実際に歴史的遺産を文化財指定するかしないかは文化財調査委員や教育委員会が判断)が、三国街道があったことが大きな要因と思われる。街道沿いには文化財が多い。 ※平成27年4月1日現在の各市町村の指定文化財数 みなかみ町 国：8 県：21 町：73 計：102 沼田市 国：3 県：14 市：72 計：89 片品村 国：3 県：7 村：55 計：65 川場村 国：1 県：4 村：5 計：10 昭和村 国：0 県：2 村：19 計：21
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	①文化財の保護活動参加者数 目標値を大きく上回った。文化財の保護への関心が高まっていると思われる。 ②地域の伝統芸能に参加している町民の割合 時系列比較では向上しているが、目標値を下回った。人口減少にも関連していると思われる。 ③保護・継承されている指定文化財の数 目標値99件に対して102件と上回っている。2年に1件を指定して平成29年度までに指定文化財を100件とすることを目標としていたが、今年度でこの目標は達成できた。 ④地域で継承されている伝統芸能の数 目標値どおりだった。しかし、予断できず人口減少を原因として地域に伝わる神社行事などの伝統芸能がなくなってしまう恐れは依然として残っている。
成果実績に対する総括	① 指定文化財および伝統芸能の数については目標どおりである。重要文化財や史跡、天然記念物など物件としての文化財は残りやすいが、伝統芸能など無形文化財等はそれに関わる人がいなくなると消滅するおそれがある。現在、指定文化財に関しては所有者・管理者に対して管理状況等を調査し、それに対して文化財管理謝金を支払う措置を施すことによって文化財の保護・継承に努めている。 ②平成26～28年度の3カ年で矢瀬遺跡保存修復事業を実施している。 ③名胡桃城址の保存整備計画を策定し、整備工事を実施した。 ④平成25～27年度で水上石器時代住居跡調査事業が終了し、報告書を作成している。		

		基本事業名	今後の課題	平成29年度の取り組み方針(案)
今後の課題と取り組み方針(案)	1	文化財の保存	①指定文化財の老朽化が目立ち、修繕が必要。 ②猿ヶ京関所跡や水上石器時代住居跡の整備と維持管理が必要。	①平成28年度に修繕等計画を策定予定。計画に基づき順次、修繕等をすすめていく。
	2	文化財の活用	①平成28年で矢瀬遺跡保存修復事業が完了する。矢瀬遺跡を活用して文化財への理解や関心を高める。 ②資料館は文化財の啓発普及に大きくつながるが、入館者数を見てもまったく伸びていない。	①みなかみ町歴史を活かした町づくり事業実行委員会、関係部署等と観光資源としての活用を進める。 ②資料館を有効的に活用するための展示内容や運営方法を検討する。 ③町内の学校や町民への学習の場として、情報を発信していく。
	3			
	4			

29 文化財の保存と活用

29-01-000001		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	80,688円			
国指定文化財管理事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費
事業概要	事業の意図	①指定文化財の認識 ②保存管理と活用			平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/> 目的妥当性
					主な文化財の見学者数 (雲越家住宅・旧戸部家住宅)					1,764
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	文化財調査委員と連携して指定文化財をもっと巡視し、積極的な啓発普及活動を行う必要がある。			課題とその解決策				<input type="radio"/> 効率性
										<input type="radio"/> 公平性
現在、草刈り、修繕等の維持管理にとどまっているが、積極的な啓発普及活動も推進する必要がある。平成12年度に史跡公園になった矢瀬遺跡は10年以上経過したことにより、至る所で老朽箇所が目立つようになってきた。町の文化財のシンボルともいえる重要な史跡であるため、大規模な原状復帰作業が必要と思われる。		文化財調査委員と連携して指定文化財をもっと巡視し、積極的な啓発普及活動を行う必要がある。			担当者の専門性が要求される。そのため、調査、研究をしていく必要がある。また、矢瀬遺跡は国庫補助事業により大規模な原状復帰作業を行う必要がある。					

29-01-000002		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	452,251円			
県指定文化財管理事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費
事業概要	事業の意図	①指定文化財の認識 ②保存管理と活用			平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/> 目的妥当性
					主な文化財の見学者数 (名胡桃城址)					10,867
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	文化財調査委員と連携して指定文化財をもっと巡視し、積極的な啓発普及活動を行う必要がある。			課題とその解決策				<input type="radio"/> 効率性
										<input type="radio"/> 公平性
現在、所有者へ管理に関わる年間委託料を支払っているだけであるが、より積極的な指導、啓発普及活動につとめる必要がある。		文化財調査委員と連携して指定文化財をもっと巡視し、積極的な啓発普及活動を行う必要がある。			担当者の専門性が要求される。そのため、調査、研究をしていく必要がある。					

29-01-000003		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	1,089,785円			
町指定文化財管理事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費
事業概要	事業の意図	①指定文化財の認識 ②保存管理と活用			平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/> 目的妥当性
					月夜野郷土歴史資料館見学者数(町指定文化財を展示している)					433
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	文化財調査委員と連携して指定文化財をもっと巡視し、積極的な啓発普及活動を行う必要がある。			課題とその解決策				<input type="radio"/> 効率性
										<input type="radio"/> 公平性
現在、所有者へ管理に関わる年間委託料を支払っているだけであるが、より積極的な指導、啓発普及活動につとめる必要がある。		文化財調査委員と連携して指定文化財をもっと巡視し、積極的な啓発普及活動を行う必要がある。			担当者の専門性が要求される。そのため、調査、研究をしていく必要がある。					

29-01-000004		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	70,200円			
埋蔵文化財調査事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費
事業概要	事業の意図	現状で保護される、または記録保存される。			平成27年度			単位	評価結果	<input type="radio"/> 目的妥当性
					発掘調査数					1
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	過去の出土遺物を一般公開する。			課題とその解決策				<input type="radio"/> 効率性
										<input type="radio"/> 公平性
専門性の高い分野の業務であり、担当者の日常的な調査研究が必要である。		過去の出土遺物を一般公開する。			いつ、調査が必要になるかわからないため、常に調査研究を行い準備しておく必要がある。また、出土遺物を資料館等で展示しなければならない。					

29 文化財の保存と活用

29-01-000005		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	1,111,680円				
文化財調査委員会事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費	
事業概要	事業の意図	①指定文化財の認識 ②保存管理と活用			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
					資料館(月夜野・水上・雲越)見学者数	2,197			人	<input type="checkbox"/>	有効性
<input type="radio"/>	効率性										
<input type="radio"/>	公平性										
総括と今後の方向性	全体総括	文化財調査委員との連携を強め、文化財活動を促進する必要がある。また、担当者による専門的な研究が文化財のさらなる啓発普及につながる。			今後の改革改善案	文化財調査委員と町内の文化財巡視を行い、潜在的な文化財の発見等につとめる。			課題とその解決策	担当者の専門性を高める。	

29-01-000006		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	22,652,175円				
矢瀬遺跡保存修復事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費	
事業概要	事業の意図	史跡を安全かつ詳細に見学・学習できる。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
					矢瀬遺跡見学者数(道の駅来場者数)	72,678			人	<input type="radio"/>	有効性
<input type="radio"/>	効率性										
<input type="radio"/>	公平性										
総括と今後の方向性	全体総括	見学者の安全管理、さらに国指定史跡の有効な活用のためにも工事を完了させる必要がある。			今後の改革改善案	工事打合せ等を密に行い、確実な工事を実施する。			課題とその解決策	現状通り設計業者および施工業者との連携を密に行う。	

29-01-000007		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	69,335,890円				
名胡桃城址保存整備事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費	
事業概要	事業の意図	史跡を安全かつ詳細に見学・学習できる。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
					見学者数	10,867			人	<input type="radio"/>	有効性
<input type="radio"/>	効率性										
<input type="radio"/>	公平性										
総括と今後の方向性	全体総括	見学者の安全管理、さらに史跡の有効活用のためにも工事を完了させる必要がある。			今後の改革改善案	工事打合せ等を密に行い、確実な工事を実施する。			課題とその解決策	現状通り設計業者と施工業者との連携を密に行う。	

29-01-000008		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	2,005,751円				
水上石器時代住居跡調査事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	4文化財保護費	
事業概要	事業の意図	保護される			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性	
					遺跡面積	152			㎡	<input type="radio"/>	有効性
<input type="radio"/>	効率性										
<input type="radio"/>	公平性										
総括と今後の方向性	全体総括	確実な調査を行い、遺跡の正確な広がりを確認し、貴重な文化財を保存しなければならない。			今後の改革改善案	調査検討会を開催して専門家の意見を取り入れた調査を行う。			課題とその解決策	調査後は活用方法についても検討しなければならない。	

29 文化財の保存と活用

29-02-000001		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	2,132,147円			
月夜野郷土歴史資料館管理運営事業		予算科目	会計 一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	3社会教育施設費	
事業概要	事業の意図	町内の歴史・文化を知り、その重要性を知る。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性
					来館者数	433			人	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	効率性									
<input type="radio"/>	公平性									
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	代替の場所を見つけ、現在ある施設の処理方法を検討する必要がある。資料館の場所を移す必要はあるが、資料館施設自体は存続させなければならないと考える。			課題とその解決策	撤去費用が高額であり、その計上方法を検討しなければならない。			

29-02-000002		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	2,149円			
水上歴史民俗資料館管理運営事業		予算科目	会計 一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	3社会教育施設費	
事業概要	事業の意図	町内の歴史・文化を知り、その大切さについて考える。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性
					来館者数	1,147			人	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	効率性									
<input type="radio"/>	公平性									
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	これ以上の削減は不可能であり、経費をかせずに展示内容を充実させたい。			課題とその解決策	専門的なことを調査研究し、展示内容を変更していく。専門分野に関わることであり、担当者による研究が必要。また、観光部門との提携、より一層の展示内容の工夫が必要。			

29-02-000003		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	577,469円			
雲越家住宅資料館管理運営事業		予算科目	会計 一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	3社会教育施設費	
事業概要	事業の意図	町内の歴史・文化を知り、その重要性を知る。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性
					来館者数	617			人	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	効率性									
<input type="radio"/>	公平性									
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	これ以上の削減は不可能であり、経費をかせずに内容を充実させたい。			課題とその解決策	地域住民の協力と観光部局との連携などの改善が必要。			

29-02-000004		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	500,000円			
永井宿郷土館管理運営事業		予算科目	会計 一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	3社会教育施設費	
事業概要	事業の意図	町内の歴史・文化を知り、その重要性を知る。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性
					来館者数	500			人	<input type="checkbox"/>
<input type="radio"/>	効率性									
<input type="radio"/>	公平性									
総括と今後の方向性	全体総括	今後の改革改善案	これ以上の削減は不可能であり、経費をかせずに展示内容を充実させたい。			課題とその解決策	専門的なことを調査研究し、展示内容を変更していく。指定管理しているため、基本的には展示内容等を含め永井区に委託している。			

29 文化財の保存と活用

29-02-000005		担当組織	教育課 生涯学習推進グループ			事業費	10,000円			
県博物館連絡協議会参画事業		予算科目	会計	一般会計	款	10教育費	項	6社会教育費	目	3社会教育施設費
事業概要	事業の意図	*他市町村の資料館と連携することにより、展示内容等を充実させる。			平成27年度		単位	評価結果	<input type="radio"/>	目的妥当性
					入館者数				433	人
総括と今後の方向性	全体総括	事業費が少なく、資料館の資質向上に役立つため、現状維持が妥当であると思われる。	今後の改革改善案	研修会に積極的に参加する必要がある。		課題とその解決策	<input type="radio"/>		効率性	
							<input type="radio"/>		公平性	
							専門的な学芸員(資料館・博物館専門員)がいないため、この業務を専属でできる職員がいない。			